

学力向上を図るため調査結果（概要）のお知らせ

今年度の調査結果をお知らせします。

本校では、子供一人ひとりが「わかる・できる・つかう・つくりだす」学習能力を身に付けることを目指しています。本結果をもとに、授業を改善していくとともに、来年度に向けて、どの場面において今まで学習してきた内容を生かすことができるのかを考え、指導計画を作成していきます。

1 全国学力・学習状況調査 【対象：6学年】

実施日：令和5年4月18日（火）

(1) 国語 学習指導要領の領域の内容、平均正答率（％）

	言葉の特徴 や使い方に関する事項	情報の扱い 方に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	国語全体
本校	83.1	77.5	84.7	28.8	79.3	78.0
東京都	73.6	66.5	73.5	28.9	73.2	69.0
全国	71.2	63.4	72.6	26.7	71.2	67.2

概ね全ての領域の全平均正答率において、都平均、全国平均を上回りました。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、正答率で都平均を9.5ポイント、全国平均を11.9ポイント上回りました。「情報の扱い方に関する事項」では、都平均を11ポイント、全国平均を14.1ポイント上回りました。「話すこと・聞くこと」では、都平均を11.2ポイント、全国平均は12.1ポイント上回りました。「書くこと」では、都平均を0.1ポイント下回ったものの、全国平均を2.1ポイント上回りました。「読むこと」では、都平均を6.1ポイント、全国平均を8.1ポイント上回りました。

調べたことを報告書にして書きまとめたり、手紙を書いたりする学習活動を通して、児童が書く活動における文字の配列について、留意点等や要点に気付き、日常生活においても生かすように指導します。

(2) 算数 学習指導要領の領域の内容、平均正答率（％）

	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	算数全体
本校	78.5	66.0	83.1	73.3	75.0
東京都	71.0	54.8	75.8	67.3	67.0
全国	67.3	48.2	70.9	65.5	62.5

全ての領域の全平均正答率において、都平均、全国平均を上回りました。

「数と計算」領域では、都平均を7.5ポイント、全国平均を11.2ポイント上回りました。「図形」領域では、都平均を11.2ポイント、全国平均を17.8ポイント上回りました。さらに、「変化と関係」領域では、都平均を7.3ポイント、全国平均を12.2ポイント上回りました。「データの活用」領域では、都平均を6.0ポイント、全国平均では

7.8ポイント上回りました。複数のグラフから適切なグラフを選択し、データの特徴や傾向を読み取ることができるように、観点を決めて分類する指導を続けます。

(3) 意識調査（調査結果の一部）

学習面・生活面の意識調査も行いました。その結果から一部を抜粋してお知らせします。

自分には、よいところがあると思いますか。

「当てはまる」については、53.6%、「どちらかといえば、当てはまる」については30.4%の児童が肯定的に回答をしています。本校で取り組んでいる「よいところ見つけ名人」「よいところ伸ばし名人」によって、児童一人ひとりが自分のよさに気づき、教師や友達が認め、児童が自信と誇りをもてる指導をしています。「当てはまる」は前年度よりも9.8ポイント高くなり、継続的な指導の成果が結果に表れています。児童は、教育活動を通して、他者と関わりをもち、新たな発見が生まれ、さらにその発見に磨きをかけ、自己肯定感の向上を図っていきます。毎時間、教師と児童が合意形成を図り到達目標である「ルーブリック」を通して、児童が主体的に学ぶことにつながっている成果です。また、コロナ禍のため学校行事を縮小・中止にするのではなく、従来の学校行事の進め方を教職員で見直し、実施してきました。今後も、教師と児童が向き合う時間を確保し、児童一人ひとりを褒め、育てていきます

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

「当てはまる」については、36.6%、「どちらかといえば、当てはまる」についても36.6%であり、児童が73.2%の児童が肯定的に回答をしています。前年度調査では「当てはまる」と回答した児童の割合は16.5%であり、大幅に向上したことがわかります。本校では、未来の社会を創る担い手である児童を、学校と地域が連携し合って育てる教育活動の実現を目指しています。これが「社会に開かれた教育課程」であり、特に生活科・総合的ではすべての単元において地域との関連を図っています。児童は学習の中で身近な社会である地域について思いや願い、課題を持つ機会を多くもつことができ、自分事として探求活動に取り組むことにつながっています。

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

「役に立つと思う」は75.9%「どちらかといえば、役に立つと思う」は21.4%の児童が回答しました。タブレット端末の活用が各教科で有効に活用されていることがうかがえます。情報の収集や、調べたことを整理したり分析したりする場面における活用も進んでいます。

5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

「発表していた」については26.8%、「どちらかといえば、発表していた」については36.6%の児童が回答しました。今後も、各教科での学びをつなぎ合わせながら自分の考えを伝える力を高めていくとともに、前項の結果を基礎に据え、児童が資料をまとめたり、様々な意見や考えを比較したり、自分の考えを視覚化したりする学習ツールとし

てタブレット端末をさらに有効活用していける指導を行います。

2 児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都）（調査結果の一部）

【対象：4学年、5学年、6学年】

期間：5月19日、5月20日、6月1日、6月17日、6月21日（学年・学級で実施日を設定）

(1) 「教科の授業の内容はどのくらい分かりますか。【回答割合（％）】

4学年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
国語	59.5	36.2	3.4	0.9
社会	69.0	25.9	4.3	0.8
算数	59.5	25.0	13.8	1.7
理科	67.2	26.7	5.2	0.9

5学年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
国語	55.7	36.5	3.5	4.3
社会	53.9	36.5	5.3	4.3
算数	56.5	30.4	7.0	6.1
理科	64.3	30.4	1.8	3.5

6学年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
国語	52.3	43.2	2.7	1.8
社会	63.1	31.5	5.4	0.0
算数	62.2	33.3	2.7	1.8
理科	61.3	35.1	1.8	1.8

(2) 他の人と相談して、考えを深めるようにしている。【回答割合（％）】

	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
4学年	37.1	36.8	17.3	8.8
5学年	27.8	41.7	16.6	13.9
6学年	36.0	35.2	22.5	6.3

(3) どうしてそうなるのかという理由を考えながら学習している。【回答割合（％）】

	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
4学年	42.5	33.0	17.5	7.0
5学年	33.0	40.9	15.7	10.4
6学年	43.3	31.5	18.9	6.3

(4) 答えだけでなく、考え方も確かめながら学習している。【回答割合 (%)】

	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
4 学年	47.1	30.1	16.4	6.4
5 学年	41.7	32.2	17.4	8.7
6 学年	44.2	33.3	16.2	6.3

児童一人ひとりが思考力・判断力・表現力を身に付け、自己の学びの自覚から探究に繋げる授業を展開しています。

『探究開三小メソッド5』を基に、1時間あたりの到達目標としてルーブリックを教師と児童が共に立て、終末には「振り返り」を文章で書くことを重視して行いました。探究的な学びを追究し、思考力、判断力、表現力を育てるとともに、主体的に学習に取り組み、自己の学びの自覚につなげる指導を継続していきます。